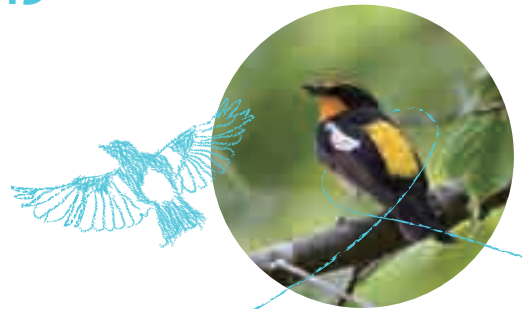
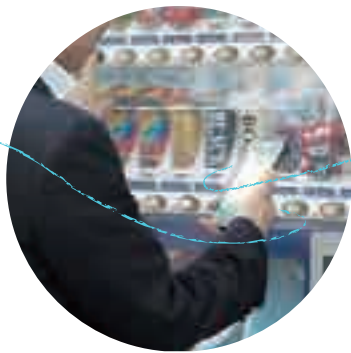


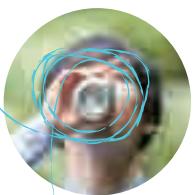
# SUNTORY



## Corporate Communication Book 2019



水と生きる



# サントリーグループ120年の歴史

創業から現在まで、常に時代の先を見据えた活動を続けて120年。サントリーグループの歩みを、事業活動、社会・環境活動で振り返ります。

## 事業活動の歴史

サントリーグループの歴史をつくってきたのは、常に新たな価値を求め続けるチャレンジ精神でした。失敗や反対を恐れず、ひたすら挑戦し続ける。新しい市場創造も、新たな価値提供も、そんな情熱から生まれました。「やってみなはれ」は、現在も未来も、私たちサントリーの原動力となっています。

### 1899

#### 鳥井商店 創業

大阪市に「鳥井商店※」を開業。ぶどう酒の製造販売を開始しました(2月1日)。

※1921年「株式会社 寿屋」創立



創業者・鳥井信治郎  
(1879-1962年)

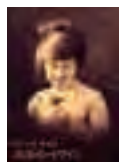
「日本人の味覚に合った洋酒をつくり、日本の洋酒文化を切り拓きたい」

### 1907

#### 甘味葡萄酒『赤玉ポートワイン※』発売

何度も失敗を重ねながらも、時代を先駆ける新商品の開発に成功。斬新なネーミング、ボトルデザイン、広告、宣伝などもあいまって大ヒット。『赤玉ポートワイン』はサントリーの礎となります。

※1973年に『赤玉スイートワイン』に名称変更



『赤玉ポートワイン』の広告

### 1923

#### 「サントリー山崎蒸溜所」建設着手

##### 日本初のモルトウイスキー蒸溜所

日本で、日本の風土、日本人の味覚に合った本格的なウイスキーづくりを——。

国産ウイスキーの製造を始めた信治郎は、「よい原酒はよい水が生み、よい熟成はよい自然環境なしにはあり得ない」との思いから、京都、天王山の麓の山崎に「サントリー山崎蒸溜所」の建設に着手。



### 1937

#### 『サントリーウイスキー角瓶』発売

ウイスキーづくりに踏み出して13年目、信治郎が長年夢見ていた日本人の繊細な味覚に合った豊かな香味の本格国産ウイスキーが実現。

※製品の撮影画像に、一部加工を施しています



## 1900

1910

1920

1930

1940

1950

## 社会・環境活動の歴史

事業で得た利益は、「事業への再投資」「お得意先・お取引先へのサービス」とどまらず「社会への貢献」にも役立てたい、という創業者の精神が「利益三分主義」という言葉には込められています。事業の成功をステークホルダーや社会全体と分かちあい、互いに発展・成長していける関係づくりに全力を注いでいきます。

### 1921

#### 「邦寿会」設立・「今宮診療院」開設

##### 社会福祉活動スタート

大阪で生活困窮者の救済のため無料の診療所を開設したことから、その歴史は始まります。以来90年以上、社会奉仕への強い信念のもと、その時代にふさわしい社会福祉活動をいち早く取り入れて実現してきました。



### 1946

#### 「食品化学研究所」設立

(現「公益財団法人 サントリー生命科学財団」)



### 1961

#### 「サントリー美術館」開館

##### 芸術・文化活動の開始

豊かな生活文化への貢献を目指し、美術と音楽を中心に芸術文化分野における社会貢献活動を開始。



### 1969

#### 「鳥井音楽財団」設立

(1978年「サントリー音楽財団」に改称

～現「公益財団法人 サントリー芸術財団」)



1961

2代目社長  
佐治敬三就任



1981

『サントリーウーロン茶』発売



1990

3代目社長  
鳥井信一郎就任



1963

「サントリー株式会社」へ社名変更  
『サントリービール』発売

ビール事業への挑戦



2代目社長・佐治敬三は、「現状に満足せず絶えず成長する企業でありたい」との思いのもと、ビール事業という大きな夢にチャレンジします。

1983

フランス・ボルドーの  
「シャトー・ラグランジュ」経営開始

日本のワイン需要の拡大とワイン文化の向上を目指して、世界のワイナリー・トップブランドと提携。



1984

『サントリーシングルモルト  
ウイスキー山崎』発売



1992

缶入りコーヒー『BOSS』発売



1993

健康食品事業に本格参入

食のちからを健康のちからに

健康志向が高まりをみせた1990年代、サントリーも健康・ライフサイエンスの分野に参入。ウイスキーや赤ワイン、ビール、ウーロン茶などに含まれるポリフェノールの研究を礎に、長年にわたる開発の末、1996年にゴマの健康食品『セサミンE』を発売しました。



1972

「サントリーフーズ株式会社」設立  
飲料・食品事業に本格参入



1978

メロンリキュール『MIDORI』を  
アメリカで発売



1996

発泡酒『スーパーホップス』  
発売



# 1960

1970

1980

1990

1973

「愛鳥活動」開始

野鳥が「環境のバロメーター」であることから、鳥や人、すべての生き物が豊かに暮らせる環境づくりを目指し、「愛鳥活動」をスタートしました。「白州蒸溜所」では敷地内に鳥の楽園「バードサンクチュアリ」を開設。



白州蒸溜所(2010年撮影)

1979

「サントリー文化財団」設立  
(現「公益財団法人サントリー文化財団」)

社会・人文科学の研究や、地域文化への貢献を目指して設立。



1986

「サントリーホール」開館

人々の生活を楽しく豊かなものへの思いから、“世界一美しい響き”をコンセプトに、日本のクラシック音楽界の中心的役割を担うホールを開館。



カラヤンが「音の宝石箱」と称したワイナードを模した大ホール。

1980

ラグビー部創部

社会人ラグビーチーム「サントリーサンゴリアス」を創部。現在は、ジャパンラグビートップリーグに加盟しています。



1989

「サントリー世界愛鳥基金」創設

野鳥保護に取り組む団体を支援する公益信託を設立。

1997

「サントリーグループ環境基本方針」制定

1973

バレーボール部創部

企業スポーツ活動の開始

企業スポーツへの参加やスポーツ振興活動を開始。自社チームを組織してリーグに参加するとともに、子どもたちへのクリニックなども展開しています。



2001

4代目社長(現会長)  
佐治信忠就任



2003

『ザ・プレミアム・モルツ』発売



2003

サントリー『登美1997』がフランスの  
国際コンクールにて金賞受賞



『サントリーシングルモルトウイスキー山崎12年』  
が「インターナショナルスピリッツチャレンジ  
(ISC)」にて金賞受賞

2004

サントリー緑茶『伊右衛門』発売



2004

世界初の「青いバラ」開発成功

「不可能」を「夢かなう」へ

バラには青い色素がないため、青いバラをつくることはできない——これが当時の研究者たちの意見でした。10年以上の研究の末、バイオテクノロジーを用い世界初となる青いバラの開発に成功。2009年には「夢かなう」との花言葉とともに販売が開始されました。



2005

『ザ・プレミアム・モルツ』が日本で初めて  
「モンドセレクション」ビール部門で最高金賞  
受賞\*

ビールの本場で卓越した醸造技術と品質の高さが認められました。以降、2005年から3年連続最高金賞受賞。

\*中瓶が受賞



2009

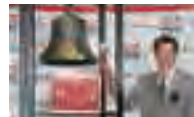
フランスの清涼飲料メーカー  
「オレンジナ・シュウェップス・  
グループ」の全株取得



2013

「サントリー食品インターナショナル株式  
会社」東証1部上場

サントリー食品  
インターナショナル  
社長(当時)・鳥井信宏



食のちからを健康のちからに

2013年7月、サントリーグループの飲料・食品事業を担うサントリー食品インターナショナル(株)が東証1部に上場。市場の急成長が見込まれる東南アジアを中心に、海外での飲料事業拡大にも力を入れています。

2013

サントリー緑茶『伊右衛門 特茶  
(特定保健用食品)』発売



2000

2005

2003

サントリー「天然水の森」活動開始

水を育む森づくりを開始

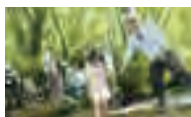
企業理念の一つに掲げる「人と自然と響きあう」のもと、自然の恵みに支えられている企業の責務として環境経営を推進。国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を育むという目標を掲げて水源涵養活動をスタートしました。



2004

サントリー「水育(みずいく)」活動開始

豊かな地球環境を未来に引き継いでいくために、次世代環境教育「水育」を開始。独自のプログラムで水の大切さを次世代に伝えています。



2005

「水と生きる SUNTORY」制定

地球にとって貴重な水を守り、水を育む自然環境を守り、次世代につないでいく。そして、社会に潤いを与えるように、人々の豊かな生活文化を創造していく。水のように柔軟な発想で新たな価値を生み出し続ける企業でありたい。「水と生きる」は、そんな私たちの思いを込めた、約束の言葉です。

水と生きる SUNTORY

2011

東日本大震災復興支援  
「サントリー東北サンさん  
プロジェクト」開始



2014

「サントリー環境ビジョン2050」策定



2014

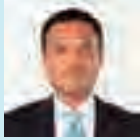
「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)」  
支援開始





2014

5代目社長  
新浪剛史就任



2015

新しい研究開発拠点  
「サントリー ワールド リサーチセンター」竣工



2018

『ザ・プレミアム・モルツ』  
"神泡"プロモーション実施



2014

「ビームサントリー」設立

世界第3位※のプレミアムスピリッツメーカーの誕生。  
※ IWSR データより推定



ビームサントリー  
Chairman CEO(当時)・  
Matt Shattockと、  
サントリーホールディングス  
代表取締役社長(当時)・  
佐治信忠

ビームサントリー 誕生

2014年、アメリカのビーム社を買収し「ビームサントリー」を設立。『ジムビーム』『山崎』などを世界中で販売、より一層グローバルな事業展開を行っています。

2016

「World Whiskies Awards 2016」にて  
『響21年』が「World's Best Blended  
Whisky」受賞



2019

『LEGENT(リージェント)』発売  
日米共同開発の新しいタイプの  
バーボンウイスキー。



2017

『クラフトボス』シリーズ発売



2017

ジャパニーズクラフトジン  
『ROKU(ロク)』発売

ホワイトスピリッツでは初となる  
ビームサントリー社との共同開発商品。



2015

『ザ・プレミアム・モルツ  
マスターズドリーム』発売



2010

2020

2015

2015

海外では初となる次世代環境教育「水育」を  
ベトナムで活動開始



2016

熊本地震復興支援  
「サントリー水の国くまもと  
応援プロジェクト」開始

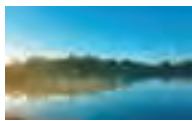


2016

アメリカ・ケンタッキー州の  
メーカーズマーク蒸溜所にて  
「ナチュラル・ウォーターサンクチュアリ」  
プロジェクト開始

「水」の取り組みをグローバルに展開

貴重な天然資源「水」を守るため、ビームサントリーでは水域保全活動「ナチュラル・ウォーターサンクチュアリ」を展開。世界各地の地域課題に寄り添った活動をグローバルに推進していきます。



2019

サントリー「天然水の森 北アルプス」の  
森づくり活動に関する森林(もり)の里親協定  
を締結

『サントリー天然水』第4の水源地となる長野県大町市の  
新生産拠点にて、水源涵養エリアにあたる森林の  
整備活動を開始します。



「天然水の森」国内工場で汲み上げる地下水  
量の2倍以上の水の涵養 目標を達成  
サントリー「天然水の森」は全国15都府県21ヵ所、  
約12,000haとなりました。

2017

サントリーグループ共通の「水理念」策定

2019

「サステナビリティ・ビジョン」策定

2018

「サントリー環境ビジョン2050」改定  
「2030年目標」策定



# 水と生きる

「水と生きる」は、わたしたちサントリーグループがお客様はもちろんのこと、地域社会や自然環境と交わす約束の言葉です。

## 自然への思い ～水とともに生きる～

お客様に水と自然の恵みをお届けする企業として、貴重な共有資源である水を守り、水を育む自然環境を次世代につないでいく。

## 社会への思い ～社会にとっての水となる～

水があらゆる生命の渇きを癒し、潤いを与えるように、お客様や社会にとって価値ある商品やサービスを通じて、人々の豊かな生活文化の創造に貢献していく。

## わたしたち自身への思い ～水のように自在に力強く～

すべての社員が水のように柔軟に常に新しいテーマに挑戦し、新たな価値を創造する企業であり続ける。

これら3つの約束を果たすために、わたしたちは日々の行動を積み重ねていきます。

ステークホルダーの皆様へ

## 「水と生きる」企業として サステナブルな社会の 実現を目指す



サントリーグループは、今年で創業120年という節目の年を迎えました。サントリーグループは「人と自然と響きあう」を企業理念に掲げています。これは、世界中の人々に最高品質の商品・サービスをお届けすることで、人々の豊かな生活文化の創造に貢献すると同時に、常に社会や美しい地球環境との共生を実現するという揺るぎない理念です。創業以来、脈々と受け継がれてきた「やってみなはれ」「利益三分主義」の精神を根底に、お客様の生活を彩る新たな価値の創造を目指して挑戦を続け、心豊かな生活文化に貢献する企業でありたいという思いは変わることはありません。

「水と生きる」という言葉は、この企業理念の実現を目指し、お客様をはじめ、社会と交わす約束の言葉として定めたものです。お客様に水と自然の恵みをお届けする企業として、地球にとって貴重な水を守り、水を育む環境を守っていくこと。水があらゆる生命の渇きを癒し潤いを与えるように、お客様と社会と寄り添う企業であり続けること。そして、水のように柔軟に、力強く、常に新しいテーマに挑戦し、新たな

価値を創造していくこと。「水と生きる」にはこのような強い決意と思いが込められています。サントリーの事業基盤ともいえる水としっかりと向き合い、水と水を育む自然に学び、その健全な循環に積極的に働きかけることで、「水と生きる」という約束を果たしていきます。

世界中の人々や地域社会、そして大いなる自然との共生を目指す企業理念のもと、私たちが実現していくのは生命の輝きに満ちたサステナブルな社会です。100年先の未来を見据え、新たな価値を創造する“Growing for Good”な企業を目指して、私たちはさらなる革新と挑戦を続けてまいります。

2019年7月

サントリーホールディングス株式会社  
代表取締役会長

佐治信忠

# Contents

## Introduction

- 1 Corporate Message
- 2 サントリーグループ120年の歴史
- 6 ステークホルダーの皆様へ サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長 佐治 信忠
- 8 「水と生きる」に込めた3つの約束



### Top Interview

「水と生きる」を世界へ  
 サントリーホールディングス株式会社  
 代表取締役社長  
 新浪 剛史



サントリアン Interview ①  
 水を守り水を育む  
 サントリー食品インターナショナル株式会社  
 ジャパン事業本部 生産・SCM 本部 専任部長  
 天然水チーフアンバサダー  
 日下部 健



サントリアン Interview ②  
 水のように社会を潤し続ける  
 サントリーホールディングス株式会社  
 コーポレートサステナビリティ推進本部  
 CSR推進部長  
 小林 章浩



サントリアン Interview ③  
 あらゆる人材が水のように自在に  
 力強く輝けるように  
 サントリーホールディングス株式会社  
 HR 本部 グローバル人事部部長  
 スー・ガノン

## 19 「水と生きる」取り組み



21 サステナビリティ・ビジョン



23 お客様志向



25 品質



27 自然との共生



31 社会との共生



35 人材育成

## 37 企業概要

## 39 事業概要

## 41 グループ会社の社会貢献活動紹介

発行日：2019年7月22日

発行：サントリーホールディングス株式会社  
 コーポレートサステナビリティ推進本部 コーポレートブランド戦略部  
 〒135-8631 東京都港区台場2-3-3  
 TEL. 03-5579-1536 FAX. 03-5579-1755  
 URL. <http://suntory.jp/>

製作・印刷：凸版印刷株式会社

※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表等の無断転載を禁じます。  
 COPYRIGHT © SUNTORY HOLDINGS LIMITED. ALL RIGHTS RESERVED





# 水と生きる

## 「水と生きる」に込めた 3つの約束

地球にとって貴重な水を守り、水を育む自然環境を守り、次世代につないでいく。

そして、水のように社会を潤し、人々の豊かな生活文化を創造していく。

水のように柔軟な発想で新たな価値を生み出し続ける企業でありたい。

「水と生きる」は、そんな私たちの思いを込めた、約束の言葉です。

## Top Interview

# 「水と生きる」を 世界へ

「水と生きる」を社会との約束に掲げる企業として、人々と社会、そして自然と共生した持続可能な社会の実現を目指し、グローバルに挑戦し続けます。

サントリーホールディングス株式会社

代表取締役社長

新浪 剛史

Takeshi Niinami



宿言実行やってみなはれ大賞

サントリーグループ全従業員を対象に2015年に創設。自ら旗を掲げ、新しい発想に基づくチャレンジングな活動により「やってみなはれ」を達成したチームに対しての表彰制度。2018年に第4回目を迎え、世界中から全450チームを選べるエントリーがありました。今後もサントリーグループは、世界中で、夢大きく、御座願しながら、新たな価値の創造に挑み続けていきます。

## サントリーグループの使命

### グローバル社会のなかで 世界の課題解決に 大きな役割を果たす

世界が急速な発展を遂げる一方、私たちは環境問題や人口増加に伴う資源・エネルギー・食料の逼迫、格差の拡大など世界規模での大きな課題に直面しています。その解決には、世界のさまざまな立場の人や組織が連携し協力して取り組まなければなりません。2015年の国連サミットで「持続可能な開発目標 (SDGs)\*」が採択され、世界が共通の課題として、その解決に向け大きく動き始めています。サントリーグループは、「人と自然と響きあう」を理念として掲げ、お客様に高品質な商品・サービスをお届けすると同時に、心豊かな生活文化や持続可能な社会の実現を目指しています。今こそこれらの課題に真摯に向き合い、グローバルプレイヤーとして国境を越えて協力し合い、世界の課題解決に貢献していくことが使命だと考えています。

創業以来、サントリーグループに受け継がれてきた「やってみなはれ」「利益三分主義」などの精神に基づき、地球規模で未来を見据えた取り組みを継続していく。そして人々に認められることで「世界で最も信頼され、愛されるオンリーワンの総合食品酒類企業グループ」を実現していきたいと考えています。

\* SDGs: 持続可能な社会を実現するために、2030年までに全世界が取り組むべき17の目標と169のターゲット



# 「Growing for Good」な経営を推進することでサントリーらしく社会に貢献

**自** 然、社会と共生するサステナブルな社会を実現する——これは私たちが使命として掲げている「人と自然と響きあう」社会の実現にほかなりません。その実現に向けて掲げる経営ビジョンが、「Growing for Good」です。「水」をはじめとする自然の恵みをいただき、新たな価値の創造で人々の生活文化を豊かにし「Growing = 成長」を続けることで、「Good = よりよい社会づくり」を実現する。「水と生きる」企業として活動をより強力に推進していくため、今年7月に「サステナビリティ・ビジョン」を策定しました。私たちが目指すサステナブルな社会を示すとともに、「水」「CO<sub>2</sub>」「原料」「容器・包装」「健康」「人権」「生活文化」という7つの重点テーマを掲げました。これを指針として、私たちのあらゆる活動に、サステナビリティの視点を取り込み、グループ全体で推進していきます。

また、海洋プラスチック問題に関しても、循環型社会、脱炭素社会の実現を目指した「プラスチック基本方針」を策定し、2030年に向けた意欲的な目標を掲げ取り組みを進めています。「水と生きる」私たちにとって地球環境は大切な経営基盤であり、それを将来にわたって存続させていくことは、事業活動においても、人々の生活文化を豊かにするという使命を果たし、私たち自身が持続的に成長するためにも不可欠です。「サステナビリティ・ビジョン」のもとグローバルに「Growing for Good」を推進し、サントリーにしかできない活動に継続的に取り組み、サステナブルな社会づくりに貢献していきます。



ペットボトルの革新的なりサイクルシステムを開発  
協栄産業(株)および海外機械メーカーと協同で「FtoPダイレクトリサイクル技術」を開発。従来システム比25%のCO<sub>2</sub>を削減\*しています(ペットボトル用プリフォーム1kg製造にあたり)。  
\*使用済みペットボトルからプリフォームまでの工程において

## 新価値創造とグローバルシナジー

### お客様の心豊かな生活文化を実現する新価値の創造

**私** たちの「Growing = 成長」を支えてきたのは、お客様の心豊かな生活文化を実現する「新価値の創造」です。今までにない革新的な商品や飲用スタイルなどで新たな価値を創出し、市場を切り拓いてきました。近年、事業をグローバルに展開するなか、国内外のサントリーグループ社員が国籍・会社・事業を超えて交流し、さまざまな価値観・技術のシナジーを生み、これまでになかった共同開発商品を世の中に送り出しています。ビームサントリーのものづくりと日本のものでの伝統が交わり生まれたクラフトジン『ROKU(ロク)』、クラフトウオツカ『HAKU(ハク)』、そしてバーボンウイスキー『LEGENT(リージェント)』は、グローバルシナジーが生んだ革新的な商品です。

共通の基盤となるのは、徹底的なお客様志向と品質へのこだわりです。お客様の声に耳を傾け、生活の現場に寄り添い、その期待に応えること。安全・安心はもちろんのこと、お客様が飲用される時のおいしさや楽しさ、さらには容器の使いやすさや環境への配慮など、ものづくりからお客様のお手元に届くまでのすべての工程で、情熱と徹底的な品質へのこだわりを大切にしています。



初の日米共同開発バーボンウイスキー『LEGENT(リージェント)』  
ビームサントリーの3種の原酒を用い、山崎蒸溜所のチーフブレンダーによるブレンド技術で重層的な味わいの新しいタイプのバーボンに。2019年3月発売。





#### 海外グループで広がる社会貢献活動

ビームサントリーでは、「Together for Good」という拠点周辺の自然および水源の保全活動を実施しています。2019年には、世界に拠点を持つビーム社、全13カ国・55地域で2,000人もの社員が一斉に参加しました。

## グローバルな社会課題解決への貢献

# 「水と生きる」企業として、「水」を中心に世界の課題に取り組む

「水と生きる」企業であるサントリーグループにとって何より優先して取り組むべき課題は「水」です。2003年にスタートした水源涵養活動「天然水の森」活動は、国内工場場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を育むことを目指し取り組みを重ね、今年2019年6月、目標を達成しました。

2017年には「水理念」を掲げ、「水」への共通の価値観をグローバルに共有しています。次世代環境教育プログラム「水育」は、国内で培った知見や成果を基にグローバルに広がり、ベトナムをはじめインドネシア・タイでもそれぞれの地域に寄り添った独自のプログラムを開始しています。アメリカやヨーロッパでは、工場の水源地の自然を守り育む活動への取り組みが広がっています。「水」問題は地域によって課題がさまざまななか、それぞれの地域課題に合わせた活動を展開し、世界の「水」のサステナビリティへの貢献を推進していきたい。また、自社だけでなくサプライチェーン全体で人権や原料調達などに関しても、幅広い社会課題に向け取り組みを強化していきます。



## The CEO Water Mandate

#### ザ・シーイーオー・ウォーター・マンドート

2018年3月に国連グローバルコンパクトのイニシアティブである「The CEO Water Mandate」に署名。世界の水課題解決に向けて、サントリーが積極的に取り組む強い意思を表明しました。

## 人材育成

# 「人」が価値を生み出す 社員一人ひとりが事業基盤

「Growing for Good」を実現し、真に社会から必要とされる企業となるために、何よりも大切なのは「人」です。グループに集う社員一人ひとりが企業理念や創業精神を共有し、しっかり学び理解することが大切です。サントリーに受け継がれる「やってみなはれ」「利益三分主義」の創業精神を原動力として、さまざまな背景や価値観を持つ社員が、それぞれの力を発揮していける組織でありたい。社員一人ひとりが異なる価値観をおもしろいと感じ、互いを尊重し合い、また忌憚なく意見をぶつけ合うことでシナジーが生まれ、新たな価値を創出していく。

また、社員一人ひとりが日々実践していくサントリーらしい行動のあり方として、今年「サントリーグループWay」を策定しました。サントリーグループがグローバルに、そしてサステナブルに成長し続けるための基盤は、社員一人ひとりにあるのです。この「サントリーグループWay」を基本として、それぞれが存分に力を発揮し、「ONE SUNTORY」として世の中に貢献していきたいと思えます。



#### Global ONE SUNTORY

サントリーグループでは、「ONE SUNTORY」を合言葉に、世界に広がるグループ会社間のシナジー創出に向けて、国や事業を超えた人材交流や互いのノウハウの共有など、グローバル人事活動の進化を続けています。





#### サントリーの創業精神「やってみなはれ」

誰もやらなかったことに挑む。常識を疑い視点を変え、考え抜いて、ひたむきに行動する。失敗を恐れず、ひたすら挑戦し続ける。私たちの事業の原動力となる価値観です。



#### 日本初となる国際的な水認証を取得

2018年12月、「サントリー天然水 奥大山ブナの森工場」が「Alliance for Water Stewardship」を取得しました。この認証は、工場周辺流域の水の保全やステewardシップ(管理責任)の推進を目的としています。

## 「水と生きる」をサステナブルに

### 社会にとって真に価値ある 企業を目指して

「水と生きる」は私たちサントリーがお客様、社会と交わした約束の言葉です。この言葉には、「水を守り、水を育む環境を守りたい」「社会に潤いを与える企業でありたい」、そして「水のように柔軟に常に新しいテーマに挑戦し続けたい」という私たちの思いが込められています。この約束を果たし続けることが、自然と人が共生するサステナブルな社会の実現につながります。この挑戦をグローバルに、そしてサステナブルに継続していくことが企業としての成長、豊かな社会の発展につながると信じています。世界中の人から信頼され、愛される、真に価値ある「Good」な企業として認められる企業グループを目指したい。サントリーグループの社員一人ひとりが仕事への情熱と挑戦意欲を忘れず、誠実で信頼される Good Person として成長し、組織としても常に新たなチャレンジを続け成長していく。そのうえで、事業の成功をステークホルダーや社会と分け合い、ともに発展・成長していける関係を世界でつくり、お客様、社会とともにスパイラルに成長し続ける企業でありたいと考えています。

# 水を守り 水を育む

サントリーのものづくりには、「よい水から、よい商品を」という考えがあり、創業以来、天然水にこだわってきました。その背景にある私たちの取り組みから『サントリー天然水』へのこだわりを感じていただければと思います。

サントリー食品インターナショナル株式会社  
ジャパン事業本部 生産・SCM本部 専任部長  
天然水チーフアンバサダー

日下部 健

Takeshi Kusakabe



『サントリー天然水』ブランド  
出荷数量  
2018年 約1.12億ケース  
国内清涼飲料市場で  
年間販売数量No.1ブランド\*  
\*飲料総研調べ

## サントリー天然水

豊かな自然に育まれた良質な水を商品としてお届けしている『サントリー天然水』。現在、南アルプス、奥大山、阿蘇の3水源からお届けしています。

## 水を育む「天然水の森」

**サ**ントリーの事業の根幹にあるのは「水」です。ところが、私たちが扱っている天然水は、どんなに優れた技術があってもつくり出すことができません。『サントリー天然水』には、現在、3つの水源がありますが、地層や岩盤、そこに染み込むまでの時間とプロセスがそれぞれの味わいと個性を生み出します。私たちに天然水をつくることはできませんが、この水としっかり向き合うことで、個性を魅力としていくことができるのだと思います。そのため、生産拠点となる水源地に構える工場は、水源地域の魅力を水量・水質ともに将来にわたって守り続けられる場所に立地しています。

そもそも天然水はどこからくるのでしょうか。水は海から蒸発し、雨や雪となって地表に降り注ぎます。その水が時間をかけて地中に染み込み地下水となり、いくつもの地層、岩盤を通して磨かれた天然水となって私たちの元へ届くのです。ここまですかかる時間は約20年。水源を守るということは、

## 都会にいながら森を想う

そんな感覚を

子どもたちの未来に

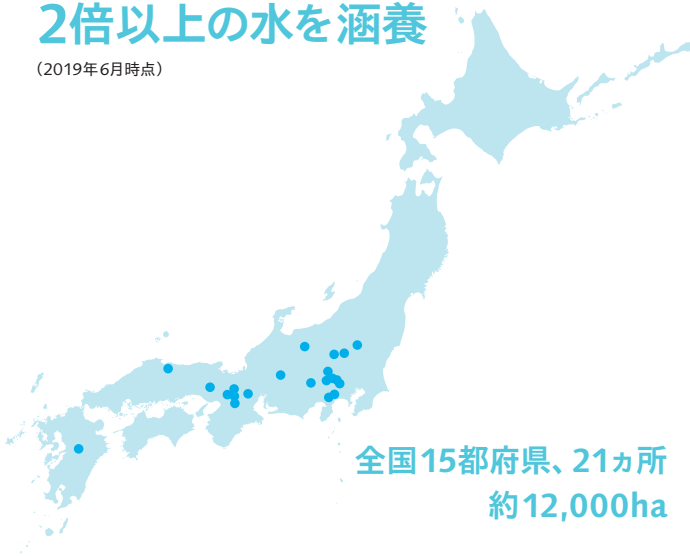


## サントリー「天然水の森」

サントリーグループ国内工場で汲み上げる地下水量の

2倍以上の水を涵養

(2019年6月時点)



長い時間をかけて水を育む森を健康に保つことでもあります。2003年から始まったサントリー「天然水の森」プロジェクトでは、水が染み込みやすい状態にあることを理想として実際に現地へ赴き、科学的なアプローチに基づいて、土の状態を知り、生態系を調べ、荒れた土地には緑を戻すといった水源涵養活動に取り組んでいます。この活動を支えるのが、サントリー「水科学研究所」です。「天然水の森」を私たちが国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を育める面積にまで拡大することを目標に、全国の水源拠点で活動を続けてきましたが、その目標を今年1年前倒しで達成することができました。

## 生産現場でも

これほど貴重な水ですから、大切に無駄なく使わなければいけません。そのため、生産現場では設備の洗浄に使う水を再びきれいにして環境に還す、高度な循環再利用設備を導入しています。その水が流域で生活水や農業用水にも使われるのです。こうした大きな水の循環を考えると、そのなかにある生産拠点と水源を守る活動は、重要な役割

## TOPICS

### 『サントリー天然水』の第4の水源が誕生 長野県大町市に工場を建設中

年間1億ケースを超えるブランドに成長した『サントリー天然水』をさらに安定してお届けするために——第4の水源を探し求めていたサントリーでは2018年7月、長野県大町市と工場立地協定書に調印しました。古くから豊かな水の恵みで知られる大町市より、2021年から『サントリー天然水』をお届けする計画です。



### サントリー「天然水の森」プロジェクト

各地の行政や森林所有者と30年以上を原則とする中長期契約を結び、専門家とともに科学的根拠に基づいた調査・研究を行い、地元の方々と協力し、水源涵養活動を行っています。

を果たしているということになります。

生産拠点の工場へは、毎年、たくさんの方が見学に来られています。山梨県の「南アルプス白州工場」では年間約80,000人、鳥取県の「奥大山ブナの森工場」では年間約25,000人の方が、標高700m以上に位置する工場まで訪れ、森の姿や空気に触れていただいています。見学で感じた感覚は、都会にいても『サントリー天然水』を飲むことで思い出していただけるのではないかと考えています。そんな感覚を、この先の未来も子どもたちに感じてもらえるような生産拠点でありたいですね。

そして今、新たに北アルプスの山々を望む長野県大町市を第4の水源とすることになりました。この地で、『サントリー天然水』ブランドにふさわしい豊かな森づくりをし、良い商品をお客様にお届けしていきたいと思っています。

私にとって、「水と生きる」というメッセージは、サントリーという企業の枠組みを超えて、地域の皆様、商品を購入されるお客様とも共有したい言葉です。「水と生きる」ことの大切さを、サントリーの天然水を通じて感じていただければと思います。そのことをより多くの方にお伝えすることに、もっと努力をしていかなければいけないと考えています。 (談)



新工場完成予想図：レセプション



# 水のように社会を 潤し続ける

私たちは常に時代を見つめた企業活動を続けてきました。その分野は芸術・文化、スポーツ、社会福祉を中心に、次世代育成、被災地支援、地域貢献など多岐にわたります。私たちがこれらの活動にかける思いをご紹介します。

サントリーホールディングス株式会社  
コーポレートサステナビリティ推進本部 CSR推進部長  
小林 章浩 Akihiro Kobayashi



社会福祉法人 邦寿会  
高殿苑（特別養護老人ホーム）、どうみょうじ高殿苑（総合福祉施設）、旭区西部地域包括支援センター（大阪市から受託）、つばみ保育園の運営や、訪問介護・通所介護などの在宅介護サービスにも注力しています。

## 創業の精神のもとに

サントリーは創業精神である「やってみなはれ」のもと、商品やサービスを通じて生活文化を豊かにしたいという思いで新しい価値創造への挑戦を続けてきました。一方で、その時代における社会課題を見つめ、さまざまな課題に向き合うなかで「人々が心豊かに人間らしく生活できる社会の実現」を目指してきました。

サントリーの社会貢献活動の第一歩が、社会福祉法人邦寿会につながる1921年の「今宮診療院」の開設でした。サントリーの創業者・鳥井信治郎が、病気になっても十分な診療機会を得られない生活困窮者のために、無料の診療所を大阪市のあいりん地区に開いたものです。

その後、日本は高度経済成長期を迎えましたが、人々が猛烈に働く一方で、心の豊かさが求められる時代でもありました。そうした時代だからこそ、「人間らしく」あるために芸術や文化の分野で社会に貢献しようと、サントリー美術館やサントリーホールを設立。さらにスポーツを通じて心身ともに健康な生活を推進するために、バレーボール、ラグビーの自社チームを組織しました。現在では、次世代の子どもたちの成長を支えるために、そういった芸術・文化、スポーツを通じた次世代育成活動にも取り組んでいます。

## 社員一人ひとりが 「利益三分主義」の具現化に 貢献していくために







#### サントリー地域文化賞

全国各地で展開されている芸術、文学、伝統の保存・継承活動などを通じて、地域の文化向上と活性化に貢献した個人・団体に毎年贈呈しています。1979年の本賞創設以来、全国すべての都道府県より受賞者が生まれてきており、第40回（2018年度）までの総数は214件に達しました。

このような社会貢献活動は、サントリーの創業以来、脈々と受け継がれているもう一つの精神「利益三分主義」に基づいています。事業で得た利益は「事業への再投資」「お得優先・お取引先への還元」、そして何より「社会へ還元する」という考えが活動の源泉となっています。

## 社員一人ひとりが活動に貢献

**今** 年40周年を迎えた文化財団の活動も、その象徴の一つです。設立当時から続く「サントリー地域文化賞」では、地域文化に貢献する活動を応援しており、過去40年で200団体以上を支援してきました。最近では、そうした全国各地の活動を私たち社員自身が体験することで、地域の良さに触れ、活動をサポートすることの大切さを感じる機会を設けています。こうした活動により、社員一人ひとりが「利益三分主義」の具現化に貢献していくことが大切だと思っています。

また、近年では毎年のように自然災害が起きています。なかでも2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震では



#### くまもとフラワープロジェクト

熊本復興支援活動「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」の一環として、サントリーフラワーズと協同で行っているプロジェクトです。九州熊本工場周辺3町（益城町・嘉島町・御船町）の仮設住宅の皆様を対象に、花苗をご提供し育てていただくことで、笑顔をお届けしたいという思いで実施しています。

大きな被害がありました。被災地支援において、金銭面の支援だけで活動は現地団体にすべてお任せというのでは、サントリーらしくないと考えています。現地へ赴き、地域の方に寄り添いながら、協力し合って息の長い支援を続ける。そうした地道な活動にこそ、サントリーらしさがあると思います。

2018年には、西日本豪雨がありました。夏の暑い時期で、現地での支援活動には熱中症などのリスクもありました。それでも社員に対してボランティアを募ったところ、次々と手が挙がり、全国のグループ社員約110人が集まり被災地へ向かいました。私もその一人として参加するなかで、地域の方々と接することが活動の原点であると、改めて実感したところです。

私たちは「Growing for Good」というビジョンを掲げています。サントリーが商品やサービスを通じてお客様に貢献し成長することで、「Good」を社会にお返しし、社会から必要とされる企業へ成長していきたい。これからもこのビジョンのもと、豊かな生活の実現を目指して社会課題に目を向け続けます。 (談)

## スポーツを通じた次世代育成支援



#### 「サントリーサンゴリアス」ラグビークリニック

トップリーグの現役選手やOBが、直接子どもたちを指導するラグビークリニックを開催。ほか「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」の運営サポートなど、さまざまな次世代育成活動を行っています。



#### 「サントリーサンバーズ」バレーボールクリニック

バレーボールクリニックの開催をはじめ、小学校の授業で「体を動かす楽しさを知ってもらうためのボール遊び教室」の開催や、地域のバレーボール大会の運営サポートなども実施。次代を担う子どもたちを支援しています。

# サントリー Interview ③ あらゆる人材が 水のように自在に 力強く輝けるように

私たちは、企業の成長の源泉は人材にあると考えています。グローバル企業として、人材を取り巻く環境も大きく変化しています。そうしたなか、創業の精神をより深く浸透させ、多様な人材が能力を発揮できる環境づくりに注力しています。

サントリーホールディングス株式会社

HR 本部 グローバル人事部部長

スー・ガノン

Sue Gannon



## 「Global HR Conference」の実施

サントリーグループ内の人事分野におけるシナジー創出に向け、ネットワークづくりや情報交換に加え、グループ共通の人事課題解決に向けた議論をする場として、年に1度「Global HR Conference」を開催。第8回となる2018年は、世界各国から53名の人事担当者が集結し、ONE SUNTORYの次のステージへの進化に向け全世界のHR一丸となってさまざまな活動強化を図りました。

## 企業風土を醸成する創業の精神

**何** 事にもチャレンジングで、いかなる時にも革新を求め、成長していこうという考えが浸透している——。これまで人事のプロフェッショナルとして、海外のさまざまな企業で働いてきた私の経験と照らし合わせても、サントリーグループの企業風土はとてもユニークで素晴らしいものだと感じています。

その企業風土を醸成しているのは、創業の精神です。「やってみなはれ」「利益三分主義」といった創業の精神が浸透していることが、社員一人ひとりが日々前向きに業務に向かう姿勢に大きく影響しているのです。そして、現在サントリーグループは世界中に幅広く事業を展開し社員も世界中に広がっています。この世界中の社員が「Global ONE SUNTORY」として大きな力を発揮し、さらなる成長を続けるために、私たちは数多くの取り組みを行っています。その一つが、2015年に

誰もが受け入れられ、  
能力を存分に発揮できる。

そんな組織を世界中に







## 「サントリー大学」3つの領域

- リーダーシップとキャリア開発
- 創業の精神の共有と実践
- ONE SUNTORYの推進

## 「サントリー大学」でのリーダーシップ開発の取り組み ー将来の経営人材・グローバルリーダーシップ開発に向けてー

グローバルを舞台に活躍する強いビジネスリーダーを育成するため、経営戦略とリンクしたカリキュラムを用意しています。



「Global Leadership Forum (GLF)」



「Global Leadership Development Program (GLDP)」

設立された「サントリー大学」です。ここでは、全世界の社員が「創業の精神」を学ぶことをベースに、個々の能力向上を図る多彩なリーダーシップ開発・企業文化浸透プログラムを設け、それぞれが未来を見据え学び続ける機会を提供しています。なかでもリーダーシップ開発は最も重要視し、強化しているポイントであり、日本を含め世界中のグループ各社のリーダーを育成することを目的に、「Global Leadership Development Program」などのプログラムをグローバルに展開しています。階層ごとに必要とされるレベルに応じて、リーダーシップやイノベーション、サントリーのミッション・ビジョンを実現するための戦略的ツールについて学びながら、参加者のサントリーとの精神的な結びつきを強めるとともに、参加者同士のネットワークも深めることを目指しています。これらは社内ファシリテーションに加え、世界中のビジネススクールとタッグを組み実践しています。そのほか、海外グループ会社の社員を対象とした研修プログラム「Global ONE SUNTORY Program」では、国境や商慣習といったあらゆるバリアを超えてサントリーの歴史・文化・理念を理解しサントリアンとしての意識を高めること、そして事業間のシナジーを生み出すことを目的にワークショップを行っています。その結果、本プログラムで考えら

れたアイデアは事業戦略や実際のアクションプランに反映され、サントリーグループの新たな価値の創出に貢献しています。今後も、さまざまな業種が集うサントリーグループの強みを活かして、シナジーを発揮し、グループ各社の人材開発に貢献していきます。

## ダイバーシティ経営の推進

サントリーグループではダイバーシティ経営を推進しており、多種多様な人材がイキイキと働ける職場環境の実現を図っています。その一環として力を入れているのが女性の活躍です。女性リーダーのネットワーク醸成に向けて「Suntory Women's Network」を立ち上げ、若手層の女性社員に対しては、リーダーに向けたマインドセット研修を実施しています。より多くの女性がサントリーの幹部職に就くことで、お客様を深く理解した事業的な価値も生まれると考えています。こうした多くの取り組みによって、誰もが受け入れられ、それぞれが能力を存分に発揮し、成長していくことができる組織を作っていきたいと思います。 (談)

## TOPICS

### サントリー初! 「グループ・グローバルの女性リーダーネットワーク」を開催

国際女性デーである3月8日に「グループ・グローバルの女性リーダーネットワーク」のローンチイベントを開催しました。本イベントは、日本をはじめ世界12拠点で同じプログラムを開催。ONE SUNTORYグループがグローバルでつながることで「個々の成長、および後進の育成」「グループ全体での成長加速」を目的としています。



# 「水と生きる」取り組み

サントリーグループでは、「水と生きる」を実現するためにさまざまな取り組みを行っています。自然環境の保全活動をはじめ、芸術文化・スポーツ、社会貢献活動、さらに未来を担う子どもたちを支援する活動を通じて、社会や人々の暮らしに潤いをもたらしたい——。そして、水とともに生き続けることのできる未来を実現したいと考えています。

21



サステナビリティ・ビジョン

23



お客様志向

25



品質







 35  
人材育成

 31  
社会との共生

 27  
自然との共生



## 「水と生きる」取り組み サステナビリティ・ビジョン

サステナビリティを暮らしの  
あたりまえにするために —  
サントリーができること、そして  
すべきことを日々学んでいます。

サントリーホールディングス株式会社  
執行役員  
コーポレートサステナビリティ推進本部長  
コーポレートブランド 戦略部長

福本 ともみ



### サントリーグループ「サステナビリティ・ビジョン」を策定














サントリーグループは、サステナビリティ経営をグループ全体でさらに強気に推進していくため、今年新たに「サステナビリティ・ビジョン」を策定しました。私たちが目指すサステナブルな社会についてのビジョンと、「水」を中心とした7つの重点テーマを掲げています。

サントリーグループが企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」を実現している社会こそが、私たちの目指すサステナブルな社会です。人々と社会、そして自然との共生を目指し、人々の生活が潤い豊かに成長することと自然環境を守り育てることが共存し、永く持続していく社会です。私たちは自然の恵みに支えられた企業であり、水がなければ何もつくることができません。その水を生み出す自然の生態系への尊敬と感謝の思いを持って、さまざまな活動に取り組んでいます。商品・サービスを通じてすべての人に人間らしい豊かな生活文化を提供するとともに、これを生み出すバリューチェーン全体において、私たち自身の事業の発展が持続可能な社会の実現に貢献できる企業であることを目指しています。

いま世界は多岐にわたる環境・社会課題に直面しています。グローバルに事業を展開する私たちサントリーグループも、

これらの課題にこれまで以上に真摯に向き合い、課題解決に貢献していかなければなりません。水のサステナビリティや気候変動への取り組みが重要なテーマであることは言うまでもありませんが、近年大きな社会問題となっている海洋プラスチック問題もサントリーグループが一丸となり先陣を切って取り組むべき課題ととらえています。この取り組みを推進するため、循環型社会の形成と脱炭素社会の実現に向けた、サントリーグループ「プラスチック基本方針」を策定しました。2030年までにサントリーグループが使用するすべてのペットボトルの原料をリサイクル素材あるいは植物由来素材のみにし、化石由来原料の新規使用をゼロにするという高い目標を掲げ、取り組みを強化していきます。

「人と自然と響きあう」という使命のもと、自然と共生しながら、すべての人が人間らしく心豊かに暮らせる社会を目指して、常に新たな価値創造に挑みます。私たちの成長が持続可能な社会の実現に貢献するものとなるよう、チャレンジを続けていきます。

テーマ	コミットメント	関連する SDGs
<b>水</b> 	サントリーグループ『水理念』に掲げる水循環への理解、節水・再利用・浄化、水資源保全、地域社会との共生などの活動を、グループ全体で推進し、外部ステークホルダーと連携しながら水のサステナビリティの実現に努めます。	  
<b>CO<sub>2</sub></b> 	脱炭素社会の実現を目指して、自社施設や設備およびバリューチェーンの両面において、最新の省エネ技術の積極導入や再生可能エネルギーの活用などを通じてCO <sub>2</sub> 排出の削減に努めます。	  
<b>原料</b> 	当社製品に不可欠な自然の恵みである農作物やその他原料について、サプライチェーンにおけるビジネスパートナーと協力し、主要原料における社会・環境課題を特定したうえでサステナビリティを実現するための取り組みを通じて共に成長し、豊かな地域社会の実現に貢献します。	  
<b>容器・包装</b> 	主要な容器・包装材について、商品設計から輸送、消費後のリサイクルまで、商品のライフサイクル全体での環境配慮を実践し、循環経済の実現に努めます。	  
<b>健康</b> 	心身とも健やかで喜びに満ちた生活の実現に貢献するために、サントリーグループは以下の3つの領域で活動を推進していきます。 <b>酒類</b> 人々の日々の暮らしに喜びや潤いをもたらす、人生の節目である祝事・慶事などでも大きな役割を果たす、ビール、ワイン、ウイスキーなどの酒類を通じて、心豊かな社会の実現に貢献します。アルコールの特性を認識したうえで有害摂取を防止するため、Drink Smartの考え方にに基づき、過剰摂取・飲酒運転・法定飲酒年齢未満の飲酒・妊産婦飲酒防止に向けた活動・情報発信を自社で取り組むとともに、社外とも連携し、推進していきます。また、お客様の多様な飲用シーンに応えるために、自社製品ポートフォリオの中でノンアルコール飲料や低アルコール製品を提供していきます。 <b>飲料</b> 日本で培った「ナチュラル＆ヘルシー」な飲料開発技術を活用するとともに、飲料を通じて社会の健康課題へ取り組み、世界中の人々のドリンクライフをより自然で、健康で、便利で、豊かなものにします。 <b>健康食品</b> 「自然のちから」と健康の関わりを科学的に解き明かし、毎日の「食」を通じて健康寿命の延伸に貢献することで、人々の健やかで美しく心豊かなウェルネスライフをサポートします。	
<b>人権</b> 	<b>グループ従業員</b> 労働安全の徹底はもとより、健康経営の推進、長期的視野での成長機会の提供により、健康で幸せに満ちた生活の実現をサポートします。人間性を尊重し、ハラスメントなどを防止するとともに、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、言語、障がいなどの多様性を認め（ダイバーシティ）、一人ひとりが異なる存在として受け入れられ、全体を構成する大切な一人としてその違いが活かされること（インクルージョン）を推進し、誰もが働きやすく、「やってみなはれ」精神溢れる就労環境づくりを推進します。 <b>バリューチェーン</b> バリューチェーンに関わるすべての人の幸せに貢献するために、当社の事業による人権への影響を精査・理解したうえで、ビジネスパートナーを含めた外部ステークホルダーと積極的に連携し、人権尊重の取り組みを推進していきます。	   
<b>生活文化</b> 	人々の心と身体を潤し、生活文化を豊かにする製品やサービスを提供するとともに、イノベーションを促進して新たな価値を創造し、あらゆる人が人間らしく心豊かに暮らせる社会づくりに貢献します。創業精神「利益三分主義」に基づき、時代の社会課題に真摯に向きあい、社会福祉、芸術・文化・学術、スポーツ、次世代育成をはじめとする貢献活動に取り組みます。事業を展開する地域において、地域社会との対話を大切にし、課題の解決や生活文化の充実に貢献するよう努めます。	

サントリーグループ「プラスチック基本方針」

(2019年5月策定)

1. Recycle & Renewable :

- ① 2030年までに、グローバルで使用するすべてのペットボトルの素材を、リサイクル素材と植物由来素材に100%切り替え、化石由来原料の新規使用ゼロの実現を目指します。
- ② すべての事業展開国において、各国の国情に応じた効率的なリサイクルシステム構築のために必要な施策を、政府機関や業界、環境 NGO、NPO などと共に積極的に取り組みます。

2. Reduce & Replacement :

資源の有効活用のために、容器包装のデザイン変更などにより、プラスチック使用量の削減を推進するとともに、環境にネガティブな影響を与えない代替となる容器包装の導入の検討を進めます。

3. Innovation :

リサイクル率向上、環境影響を最小限に抑える素材領域などにおけるイノベーションに積極投資します。

4. New Behavior :

人々の行動変容を促す啓発活動を実施するとともに、サントリーグループ社員一人ひとりが、ライフスタイルの変革に努め、分別収集の促進、河川、海岸の清掃活動などの社会貢献活動にも積極的に参加します。



サントリーグループのサステナビリティについての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/philosophy/>







「水と生きる」取り組み  
お客様志向

お客様の声に耳を傾け、  
期待に応え続けるために



## 消費者志向自主宣言

1. お客様の心に響く商品・サービスをお届けします。
2. お客様の立場に立って、安全・安心を徹底します。
3. お客様の声を企業活動に生かします。
4. お客様への情報提供を充実します。
5. お客様視点で行動する従業員の風土・意識を醸成します。

お客様の声

年間約 **81,000** 件



消費者室設置

**1976** 年



大学生とのワークショップ  
大学生参加数(2018年1月より)

のべ **118** 名

お客様により知っていただくためにサントリー流「お客様志向」をより深く知っていただく新たな活動として、2018年より、大学生を対象として、お客様視点にたった商品開発を体験するワークショップをスタート。社員からのフィードバックや解説を通じ、より理解を深めていただいています。

## お客様視点に基づいた新しい価値の提供

**私** たちは、「人と自然と響きあう」の企業理念のもと、お客様の生活文化に潤いをもたらす製品・サービス、新しい価値の創造に挑戦を続けてきました。ウイスキーを気軽に楽しんでいただくきっかけとなった『ハイボール』や、缶コーヒーとは違う新たなコーヒーの飲用シーンを開拓した『クラフトボス』——こういった価値創造の源泉は、お客様からのニーズや期待にお応えしたいという思いです。サントリーでは創業以来、お客様第一の姿勢で事業活動に取り組んでおり、1976年に「消費者室」(現在はお客様リレーション本部)を設置したり、すべての商品にお客様センターのフリーダイヤルを掲載するなど、業界に先駆けて「お客様志向経営」に取り組んできました。2017年4月には「消費者志向自主宣言」を発表。すべての企業活動において徹底したお客様志向を実践しています。

現在、お客様の声は年間8万件以上寄せられており、それらの声を分析し「VOC (Voice of Customer) 会議」のほか全従業員必修の「お客様視点ブラッシュアップセミナー」を実施するなど、社内で広く共有しています。また、お客様センターでは入社4年目の社員全員を対象に、お客様からのお電話に直接対応する「体感プログラム」を実施しています。こうしたお客様との貴重な体験を通じ、お客様志向を身につける機会としています。これからも社員一人ひとりがお客様視点で考え、行動することで「Growing for Good」な企業として成長を続けられるよう、力を注いでいきます。

## VOC(Voice of Customer)活動

2005年より「VOC活動」をスタートしました。これはお客様センターに寄せられる声を部門ごとに分析、社内各部門に共有し事業に活かす活動です。2012年には「ソーシャルメディア上のお客様のつぶやき」を収集・分析する専用システムも運用開始。年々、分析技術が高度に進化してきたことにより、多様化するお客様への理解が向上しています。

## お客様視点ブラッシュアップセミナー

年 **126** 回  
開催



## お客様視点ブラッシュアップセミナー

毎年、全従業員が必修で受講する、お客様志向を磨き上げるためのセミナー。従業員一人ひとりがお客様のために何ができるのかを考え、行動することを促すために、経営層トップが語る動画メッセージや、お客様から寄せられた声、お客様視点での改善事例などを社内講師が国内全拠点に向きFace to faceで共有。サントリーグループのお客様志向経営推進につなげています。

## DRINK SMART ドリンク・スマート

酒類を製造・販売する企業の責任として、アルコール関連問題に積極的に取り組んでいます。全従業員への適正飲酒に関する意識啓発を徹底するとともに、お酒の特性や適切な飲み方をお客様に正しくご理解いただくための情報発信や啓発活動に取り組んでいます。



サントリーグループのお客様志向についての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/activity/service/responsibility/>





## 「水と生きる」取り組み 品質

# 品質を磨き上げるために 最善を尽くす

サントリーグループでは創業以来、お客様第一の姿勢で、品質に徹底してこだわり、品質への飽くなき追求を続けてきました。最高のおいしさ・最高のサービスとともに安全・安心な品質をお客様にお届けすることが私たちの原点であり、日々品質の向上に取り組んでいます。

サントリーの品質に関する取り組みは、製造現場における活動だけではなく、私たちの品質に対する姿勢を

明文化したサントリー品質方針「All for the Quality」のもと、商品・サービスの企画開発から原料調達、製造、物流、販売、サービス、すべてのプロセスで従業員一人ひとりが品質の担い手であることを意識し、最善を尽くしています。

品質を磨くことにゴールはありません。これからもお客様に喜んでいただけるように日々努力を続けていきます。

### サントリー品質方針

## All for the Quality

わたしたちは安全で心に響く商品・サービスをお届けし お客様の夢と信頼に応え続けます

1. サントリーグループの一人一人が お客様の立場に立って 誠実に商品・サービスをお届けします
2. お客様に正確で分かりやすい情報をお届けし お客様の声に真摯に耳を傾け 商品・サービスに活かします
3. 法令を遵守します
4. 商品・サービスの安全性を徹底します
5. 国際標準を活用し よりよい品質の追求を続けます

SUNTORY







サントリーの  
分析項目  
約 **200** 項目  
(2019年6月時点)



### ▶ 水へのこだわり

商品に使用する水については、安全性の確保に最も重きをおき、水道法・水質基準項目の51項目に加え、サントリー独自の項目を設定して合計約200項目を定期的に分析・検査しています。なお当社の安全性科学センターは、国際規格ISO/IEC17025を取得しており、水中の元素分析における適正な能力を有していることを第三者機関から認定されています。

### ▶ 徹底した原料品質保証

原料ごとに専門知識を持つ有識者のチームを編成し、原料の栽培・収穫から原料加工・輸送・保管に至るまでのすべてのプロセスで徹底的にリスクを洗い出し、未然防止の対策を実施しています。



### ◀ 1本1本徹底した安全性の確保

製造工場においては、HACCPやISO9001といった品質に関する認証の取得に加え、1本1本安全・安心な商品をつくるために、日々現場で設備や製品の状態を確認したり、定められた仕組みや作業が正しく行われているかを確認しています。

官能パネラー人数  
約 **1,000** 名  
(2019年6月時点)



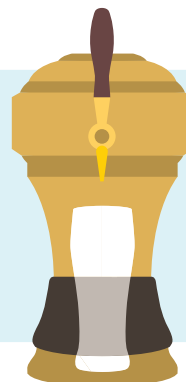
### ▼ おいしさは五感で分析

各工場では、厳しい試験をクリアした官能パネラーを認定。お客様に最高に美味しい商品をお届けするために、製品の化学分析だけでなく、製品ができるまでの工程を確認したり、製品の官能評価を日々実施しています。



### ▶ 飲用時品質へのこだわり

お客様が口にされる瞬間の飲用時品質にこだわり、営業部門においても安全・安心でおいしい商品をお客様にお届けするさまざまな活動を行っています。約40年にわたる業務店様への品質セミナーの実施や定期的なアドバイザー訪問など、業務店様と一緒に楽しくお客様に美味しい樽生ビールをお届けする活動を行っています。



「樽生達人店」店数

約 **18,000** 店

(2019年5月時点)



サントリーグループの品質についての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/quality/>





# 「水と生きる」取り組み 自然との共生

## ずっと水と生きていける未来を

### サントリーグループ『水理念』

2017年1月策定

水はグループにとってもっとも重要な原料であり、かつ、貴重な共有資源です。環境基本方針の最上位に掲げる「水のサステナビリティの実現」に向けて、次の理念をグループ全体で共有し、ステークホルダーの期待に応えていきます。



#### 1. 水循環を知る

使用する水の循環について科学的アプローチに従って流域を調べ、理解を深めます。



#### 2. 大切に使う

水の3R (Reduce/Reuse/Recycle) 活動を通じて節水に努め、浄化した水は自然に還し、環境インパクトを軽減します。



#### 3. 水源を守る

サステナブルな未来を実現していくため、ステークホルダーと協力しながら使用する水の水源保全に努めます。



#### 4. 地域社会と共に取り組む

社会が豊かになるように、水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。

# 2R+B<sup>\*3</sup> 戦略



- 国産最軽量キャップ<sup>\*1</sup>
- 国産最薄ラベル  
(再生PET樹脂80%使用)
- 国産最軽量ペットボトル<sup>\*2</sup>  
(植物由来原料30%使用)

- \*1 30φペットボトル対象
- \*2 国産ミネラルウォーターペットボトル  
(500mL~600mL)対象  
2019年4月時点当社調べ
- \*3 2R+Bは登録商標です

**Reduce**  
使う量を減らす

## グループ全体で環境経営を推進

「水」と生きる」私たちにとって、地球環境は大切な経営基盤。だからこそ、グループ全体で環境経営を推進しています。グループ環境基本方針を事業活動の基盤として、「水のサステナビリティ」「気候変動対策」を柱にグローバルに環境経営を推進しています。さらに、「サントリー環境ビジョン2050」の達成に向けて「環境目標2030」を定め、さまざまな取り組みを進めています。そのなかで、容器包装については消費後の容器包装がもたらす社会的な影響も大きいと、サントリーグループでは1997年に自主基準「環境に係る容器包装等設計ガイドライン」を策定。使用する資源量を極力減らし、再生可能な資源を積極的に導入するなど、環境負荷低減を推進しています。とりわけペットボトルに関しては、使いやすさに配慮しつつグループ独自の「2R+B (Reduce・Recycle+Bio)」戦略に基づいて、容器の軽量化やリサイクル、植物由来樹脂の積極的活用に取り組んでいます。こうした環境負荷低減活動は

**Bio**  
植物由来の資源

社会からも大きく評価されており、世界包装機構「ワールドスターコンテスト2019」では、新技術「FtoPダイレクトリサイクル技術」で「ワールドスター賞」を受賞しました。サントリーグループは、今年「プラスチック基本方針」を策定し、今後も地球環境そのものを大切な経営基盤と認識し、豊かで持続可能な社会を構築するために最大限の努力を続けていきます。

**Recycle**  
繰り返し使う

### 新技術 FtoP 「FtoPダイレクトリサイクル技術」を用いてCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減

「FtoPダイレクトリサイクル技術」とは、回収したペットボトルを粉砕・洗浄した「フレーク(Flake)」を高温で溶解・ろ過後、直接プリフォーム製造を行うことができる技術のこと。プリフォーム製造までに結晶化や乾燥など複数の工程が必要だった従来のシステムと比較すると、CO<sub>2</sub>排出量を25%<sup>\*4</sup>削減(ペットボトル用プリフォーム1kgの製造にあたり)することができます。

\*4 使用済みペットボトルからプリフォームまでの工程において

## 「サントリー環境ビジョン2050」および「環境目標2030」の概要

- 1 全世界の自社工場での水使用を **15%削減**<sup>\*5</sup>
- 2 水源涵養活動を  
全世界の自社工場の  
半数以上で実施
- 3 水負荷の高い主要原料について  
**持続可能な水使用を追求**
- 4 水に関する啓発プログラムと  
安全な水の提供などの取り組み  
**100万人以上に展開**

### 水のサステナビリティ

- 全世界の自社工場での水使用を半減<sup>\*5</sup>
- 全世界の自社工場で取水する量以上の水を育むための水源や生態系を保全
- 主要な原料農作物における持続可能な水使用を実現
- 主要な事業展開国において「水理念」を広く社会と共有

### 環境目標2030

- 1 全世界の自社拠点でのCO<sub>2</sub>排出を **25%削減**<sup>\*6</sup>(Scope 1, 2)
- 2 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO<sub>2</sub>排出を **20%削減**<sup>\*6</sup>(Scope 3)

### サントリー環境ビジョン2050

#### 気候変動対策

- 地球温暖化防止に向けて、脱炭素社会の実現に貢献

\*5 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減 \*6 2015年における事業領域を前提とした総量での削減



サントリー食品インターナショナル(株)は、環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体である「CDP」から高い評価を受け、「CDPウォーターセキュリティ アリスト企業」に3年連続で認定されました。



サントリーホールディングス(株)およびサントリー食品インターナショナル(株)の温室効果ガス削減目標(環境目標2030)が「SBTイニシアチブ」の認定を取得。



サントリーグループの自然との共生についての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/highlight/2015/environment/>







「水と生きる」取り組み  
自然との共生



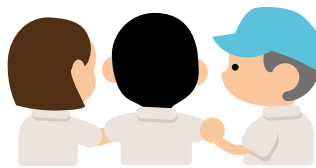
## 水を守り、水を育む

科学的アプローチにより  
それぞれの森に最適な保全・整備  
計画を立案

約 **24,000** 名

「森と水の学校」参加者数

**サ**ントリーの事業活動は、水や農作物  
など自然の恵みに支えられています。  
そのため良質な地下水を将来にわたって保  
全することに大きな責任があると考え、水  
資源の持続可能性を目指し、水源涵養機能



の向上と生物多様性の保全を目標に  
2003年「天然水の森」活動をスタートし  
ました。現在では、全国15都府県21ヵ所、  
約12,000haまで拡大し、2020年目標と  
してきた「国内工場で汲み上げる地下水

量の2倍以上の水を涵養」を今年1年前倒しで達  
成しました。水文学や土壌学、植生学などさまざ  
まな分野の研究者と連携し、科学的な根拠に基づ  
いた調査や研究をもとに流域を調べ、その場所に  
適した計画や目標を定めて推進しています。サン  
トリーは「水のサステナビリティ」を最も重要な課  
題と認識し、数十年先、100年先を見据えた活動  
を計画し、継続的に取り組んでいます。



### サントリー水科学研究所

水文学を基盤に、水源を育む森と水の研究をはじめ、国内外の水資源の研究、さらには総合食品酒類企業として水における健康や嗜好に関する研究など、「自然界の水」から「生体内の水」まで包括的な理解のための研究と知見の普及を進めています。



#### サントリーの次世代環境教育「水育」

開始から16年目を迎えた次世代環境教育「水育」は、自然の中で水や水を育む森の大切さを伝えるサントリー独自の自然体験プログラム「森の学校」と、小学校で先生方と一緒に「出張授業」の2つを中心に活動を展開。



愛鳥活動を開始

# 1973年～



#### サントリーの愛鳥活動

野鳥を保護することは、人間や自然環境を守ることに繋がるとの考えから、サントリーグループでは、1973年より野鳥が住める環境を守る「愛鳥活動」に取り組んでいます。30年目を迎えた公益信託「サントリー世界愛鳥基金」においては、これまでに延べ400団体に4億9,646万円の助成を行っており、「サンバ」の保全・繁殖活動や「コウノトリ」が安心して暮らせる地域定着への取り組みなど、さまざまな成果につながっています。

#### ワシ・タカ子育て支援プロジェクト

ワシやタカが子育てできる環境は、生物多様性に満ちている証です。このプロジェクトでは、豊かな森づくりを目指し、猛禽類が子育てできる森づくりを進めています。

## 「水のサステナビリティ」をグローバルに そして次世代へ

サントリーグループでは「天然水の森」活動のほかに、水や自然の恵みをもたらす地球環境を未来へ引き継いでいくために、さまざまな活動に取り組んでいます。豊かな生態系の象徴である野鳥を保護する「愛鳥活動」は、これまでに大きな成果を上げています。また、水みずの大切さを未来を担う子どもたちに伝える次世代環境教育「水育」も、未来の自然環境の保全・再生につながる大切な活動です。こうした水源涵養や環境保全活動、「水育」などは、国内のみならず北米、欧州、アジアなど、サントリーグループが事業を展開する世界各地にも広がっています。これからもグループ全体でよりグローバルに「水のサステナビリティ」を実践していきます。



#### ビームサントリー 「ナチュラル・ウォーターサンクチュアリ」 プロジェクト

水源涵養エリアを保全する活動。蒸溜所の33エーカーの土地では、エコチームが中心となり、水源涵養につながる自然保全活動を行っています。



#### サントリーベプシコ・ベトナム・ ビバレッジ 次世代環境教育「水育」をベトナムで 実施

ベトナムの小学生に水の大切さと衛生に対する意識向上を目的に、次世代環境教育「水育」を実施しています。



サントリーグループの水育についての詳細は  
webサイトをご覧ください。  
<https://mizuiku.suntory.jp>







## 「水と生きる」取り組み 社会との共生



### サントリーホール

「世界一美しい響き」をコンセプトに1986年に開館した東京初のコンサート専用ホール。年間550を超える国内外の一流アーティストによる公演が行われ、約60万人のお客様が来場されています。

## 多くの人々に心の潤いを



### 自社スポーツチームによるリーグ戦への参戦

サントリーグループは、ラグビーとバレーボールの自社チームを組織し企業スポーツへ参加しています。1980年創部の「サントリーサンゴリアス」は社会人ラグビーの全国リーグであるジャパンラグビートップリーグに、1973年創部の「サントリーサンパーズ」は社会人バレーボールの最高峰V.LEAGUEのDIVISION1に加盟しています。

### 芸術文化・スポーツを通じた 社会貢献活動で世の中に潤いを

**サ**ントリーグループでは、創業以来、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現を目指し、時代に合ったさまざまな社会貢献活動に取り組んでいますが、社会に潤いを届ける企業でありたいとの考えから、芸術文化・スポーツを通じた、さまざまな社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。設立50周年を迎えた公益財団法人サントリー芸術財団は、サントリー美術館とサントリーホールの2つの施設の運営、サントリー音楽賞をはじめとする音楽事業から構成されており、日本の音楽・美術のさらなる普及と発展への貢献を目指して活動を続けています。一方、設立から40周年を迎えた公益財団法人 サントリー文化財団は、日本と世界の学術・文化の発展に寄与することを目的とした事業に注力しています。





**公益財団法人 サントリー文化財団**  
 社会科学・人文科学分野の研究活動や、日本の地域文化の向上に貢献するために設立された公益財団法人 サントリー文化財団は、2019年に設立40周年を迎えました。「サントリー学芸賞」や「サントリー地域文化賞」の贈呈、社会・人文科学や地域文化に関する研究や海外出版への助成など、さまざまな活動に取り組んでいます。



**サントリー美術館**

「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館。国宝1件、重要文化財15件を含む約3,000件の収蔵品を所有、毎年開催される日本美術を中心とした多彩で魅力あふれる企画展も好評を博しています。



**サントリーチャレンジド・スポーツプロジェクト**

「PASSION FOR CHALLENGE—ともに夢に挑もう—」を掲げ、車いすバスケットボールなどのチャレンジド・スポーツ（障がい者スポーツ）支援を2014年に開始。チャレンジド・アスリートの果敢な挑戦、無限の可能性を応援しています。また、「サントリー車いすバスケットボール体験教室」の開催など、チャレンジド・スポーツを体験する機会も提供しています。

また、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するために、音楽・美術・スポーツ・自然体験などを通じたさまざまな次世代育成活動にも積極的に取り組んでいます。音楽・美術の分野では、子どもたちに本物や一流の芸術・作品に触れる機会を提供し、子どもたちの豊かな個性・人格形成を支援しています。スポーツ分野においては、子どもたちの健全な心と体の育成を支援するためのスポーツクリニックを開催しています。さらにラグビーやバレーボールの自社チームによるリーグ戦への参加や、チャレンジド・スポーツの競技活動や大会サポート、従業員によるボランティア、普及活動などを推進しています。

ラグビー部「サンゴリアス」、バレーボール部「サンバース」によるスポーツクリニック参加者総数(2018年)

**17,000** 名超



2018年「One Suntory Walk」の参加者の総歩数と3団体への合計寄付額

**11億 6,521** 万歩 約 **20** 万USドル

従業員の健康維持・増進施策を通じて、社会貢献活動を実施

グローバル健康経営×環境経営の一環で2017年に開始したウォーキングイベント「One Suntory Walk」。世界のサントリーグループ全社員約38,000人を対象に、チームにエントリーした参加者の1ヵ月間の平均歩数に応じて、水と自然に関する3つの団体への寄付額が決定します。



サントリーグループの文化・スポーツについての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/culture-sports/?vp=done>







## 「水と生きる」取り組み 社会との共生



### サントリー水の国くまもと応援プロジェクト

熊本地震復興支援の一環として、地下水の持続可能性への貢献を目指すものです。地下水涵養のための湛水農地「冬水田<sup>かんづか</sup>」の復活に取り組むなどの水源涵養対策の拡大を図るとともに、熊本大学の地下水流動メカニズムの調査・研究の支援も行っています。

※ 肥沃土の生成や雑草の減少を目的とし、休耕する冬期の田に水を張る伝統農法

### 地域に寄り添った貢献活動を

サントリーグループでは創業以来、その時代を見つめ地域に寄り添ったさまざまな社会貢献活動に取り組んできました。1921年に生活困窮者救済のために大阪市あいりん地区に無料の「今宮診療院」を開設したことから、邦寿会の歴史がはじまりました。その後、社会福祉法人として活動を続け、高殿苑（特別養護老人ホーム）やつぼみ保育園の運営をはじめボランティア活動など地域社会に根差した取り組みを継続して行って

# 脈々と、地域社会とともに



### 海外グループへも広がる社会貢献活動

ビームサントリーでは、全社員に年2日のボランティア休暇を推奨する「ビームサントリー・ケアズプログラム」を実施し、従業員がそれぞれの地元地域で社会貢献活動を行っています。





います。大規模な自然災害時には、義捐金の寄付や飲料水の提供だけではなく、従業員による被災地への支援活動も積極的に行っています。地域に寄り添いながら、心と体の支援活動をグループ一体となって、継続的に取り組んでいます。

こうした社会貢献活動を重んじるサントリーグループの「Growing for Good」の経営ビジョンは、海外グループ会社でも展開されています。ビームサントリーでは、自然および水源の保全、従業員

# 4

億円

熊本地震復興支援  
拠出額

の地元地域への還元、適正飲酒の推進を3つの柱に積極的に社会貢献活動を実施しています。2019年には全社一斉に「Together For Good」というボランティアに取り組む日を設定し、世界中のビームサントリーの社員が拠点周辺の水源保全・保護活動などに参加しました。



被災地支援活動  
みんなのまちコンサート参加者人数  
約**5,500**名



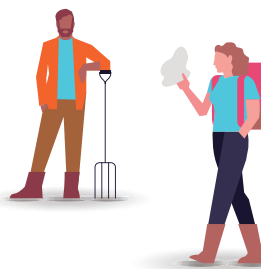
▲ 東日本大震災復興支援活動  
「サントリー東北サンさんプロジェクト」では、「漁業」「子ども」「チャレンジド・スポーツ」「文化・スポーツ」の分野を中心に、継続的な被災地復興支援を展開しています。



▲ 「西日本豪雨」災害ボランティア活動  
「会社としての物品・義捐金支援だけではなく、自分たち個人も被災された方に何か役立つことをしたい」という社員の声をきっかけに、岡山県倉敷市で従業員による災害ボランティア活動を実施。



◀ 公益財団法人 社会福祉法人 邦寿会  
高殿苑（特別養護老人ホーム）、どうみょうじ高殿苑（総合福祉施設）、旭区西部地域包括支援センター（大阪市から受託）、つぼみ保育園の運営や、訪問介護・通所介護などの在宅介護サービスなども実施しています。



◀ 公益財団法人 サントリー生命科学財団（旧「(財)食品化学研究所」）  
生物有機化学関連分野における基礎研究、次世代の科学人材の育成・輩出、ならびに優れた研究の推進を願って、奨励助成事業を行っています。



サントリーグループの社会貢献活動についての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/activity/society/>







## 「水と生きる」取り組み 人材育成



# 一人ひとりが水のように柔軟に力強く

世界へと夢を広げる  
多彩な人材を育てるために

「水」と生きる」をグローバルに実践し新たな価値を創造するためには、すべての従業員が水のように自由に、力強く、柔軟に、自分の能力を遺憾なく発揮することが必要です。サントリーグループは「人」こそが最も重要な経営基盤と考え、ずっと人材育成に力を入れてきました。入社時研修や新任マネジャー研修など各ステージでの役割に沿った研修をはじめ、従業員一人ひとりがキャリアのオーナーとして「イキイキと自分らしく」「面白い仕事する」をコンセプトに、各世代に対応したキャリアワークショップなど充実した各種研修を実施しています。2015年に開校した「サントリー大学」では、サントリーグループに脈々と受け継がれている「やってみなはれ」「利益三分主義」といった創業の精神を海外も含めたグループ全体で共有するため、海外グループ会社従業員を対象にしたプログラムにも注力しています。

また、サントリーグループでは、人材の多様性を推進し、多様な価値観や発想を取り入れ活かすことで、より大きな価値を創出する「ダイバーシティ経営」を推進しています。新たな価値創造に挑戦する「人材育成」に加え、従業員一人ひとりが最大限に力を発揮することのできる「職場環境づくり」を実現するため、「働きがい」と「働きやすさ」の両立を目指した制度と職場環境を整えています。そのほか、従業員が心身ともに健康で元気に働ける環境をつくるため、健康経営や働き方改革にも取り組み、「生産性の向上」や「ワークライフバランスの実現」、「健康・生き活きの実現」の強化を図っています。

#### ワークライフバランスの推進

労働時間の削減や適正化、フレキシブルな働き方の推進、出産・育児・介護に関する施策の拡充など、ワークライフバランスに配慮した働きやすい環境づくりに努めています。





39,466 名

2025年達成目標の女性管理職比率

 20%



階級別研修の実施

新入社員、新任リーダー層、新任マネジャー層、新任部長層などの各層ごとに、求められるスキルや知識、マネジメント能力、リーダーシップなどのテーマで、それぞれ学びを深めています。



VALUE研修

新入社員向けには、山崎蒸溜所やどうみょうじ高殿苑などを訪れ、サントリーグループのVALUE(創業精神)を学ぶ研修プログラムを実施。さらに、「天然水の森」での森林整備も行っています。

Suntory People Way

(サントリーグループとしての「人材に対する思い・考え方」を表したもの)

FAMILY

サントリーに集う人は家族です。かけがえのない存在です。サントリーが、より良い企業グループとして成長していく原動力はサントリアン一人ひとりで。長期的な視野で成長機会を提供し、健康で幸せに満ちた生活の実現をサポートします。

YATTE MINAHARE!

創業の志を胸に、わくわくするような目標を掲げ、決して諦めることなく、積極果敢な挑戦を続けます。

ENGAGEMENT

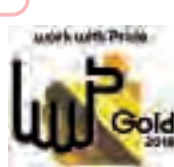
私たちは、創業精神とビジョン「Growing for Good」で強く結ばれています。個性溢れる一人ひとりが多様な価値を認めあい、響きあいながら、世の中に感動と喜びをお届けします。

Suntory Group Diversity Vision

私たちは一人ひとりの個性を尊重し互いを信頼しあう多彩なサントリアンの魅力を高めあいひとつになる。

多様な考え方、考動、経験を柔軟に受け入れ ONE SUNTORY としてグループの明るい未来を築いていく。

「健康経営」「働き方改革」に関する社外からの表彰



「健康経営」や「働き方改革」に取り組むことで、一人ひとりが元気でイキイキとした生活を送り、その活力で新たな価値創造への挑戦を目指すサントリーグループの施策は、「日経スマートワーク大賞2019」の受賞をはじめ、「健康経営優良法人2019」に認定されるなど、社外からも大きく評価されています。



サントリーグループの人材育成についての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/activity/diversity/education/>



# 企業概要

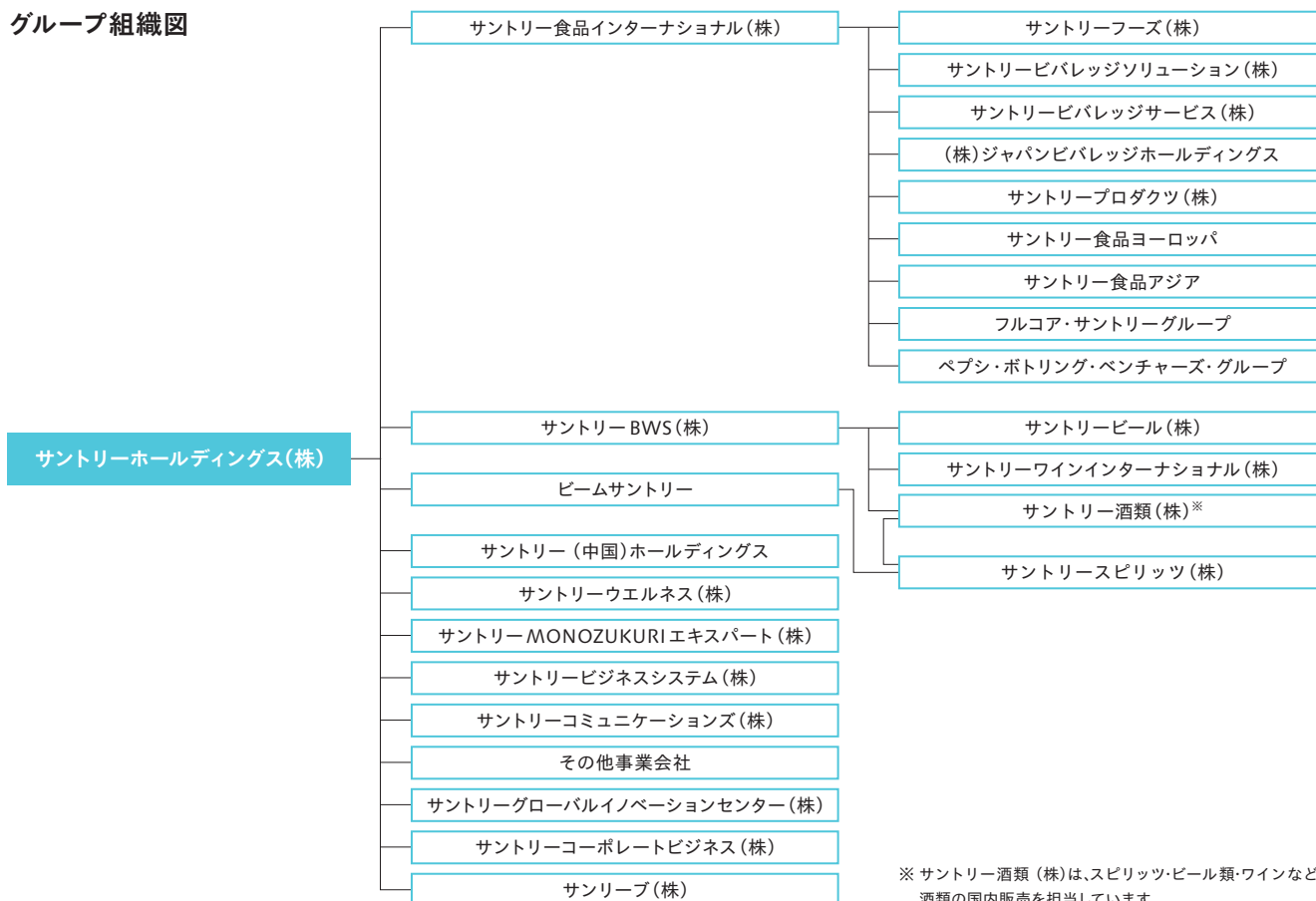
## サントリーグループ

グループ会社数:	299社(2018年12月31日現在)
従業員数:	39,466名(2018年12月31日現在)
連結売上収益(酒税控除後):	22,508億円(2018年1月1日~2018年12月31日)
連結売上収益(酒税込み):	25,173億円(2018年1月1日~2018年12月31日)
連結営業利益:	2,509億円(2018年1月1日~2018年12月31日)

## サントリーホールディングス株式会社

本社所在地:	大阪府大阪市北区堂島浜2-1-40
サントリーワールドヘッドクォーターズ所在地:	東京都港区台場2-3-3
創業:	1899年
設立:	2009年2月16日
代表取締役会長:	佐治 信忠
代表取締役社長:	新浪 剛史
資本金:	700億円
事業内容:	グループ全体の経営戦略の策定・推進、およびコーポレート機能

## グループ組織図



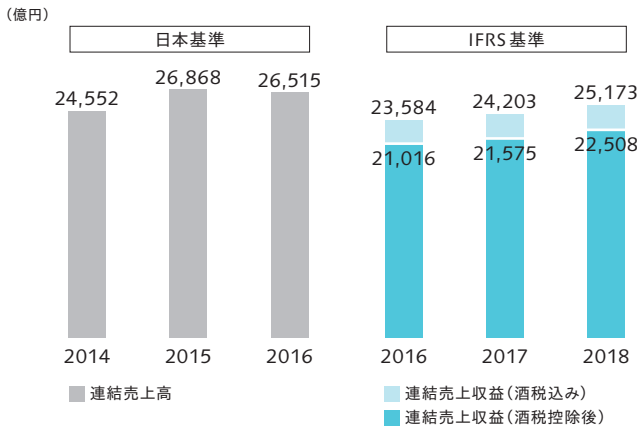
\* サントリー酒類(株)は、スピリッツ・ビール類・ワインなど、酒類の国内販売を担当しています。



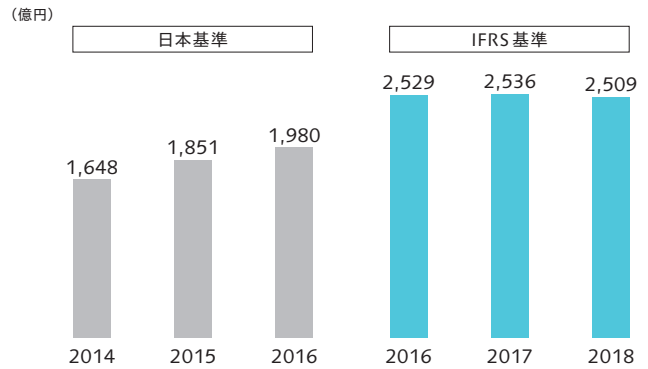
# 業績ハイライト

2017年12月期から国際会計基準(IFRS)を適用しています。

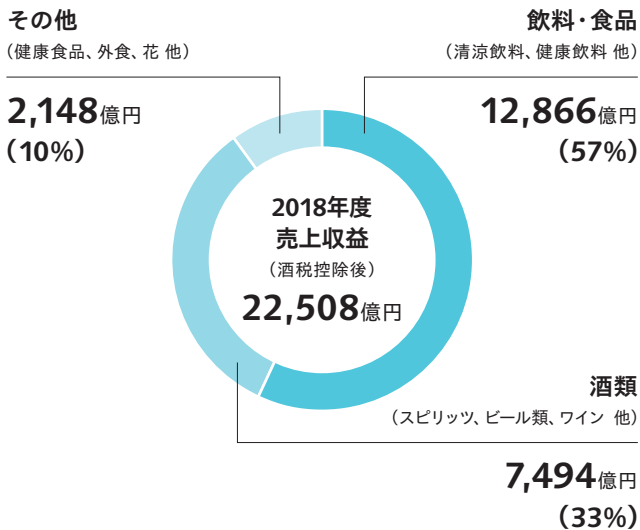
## 連結売上収益



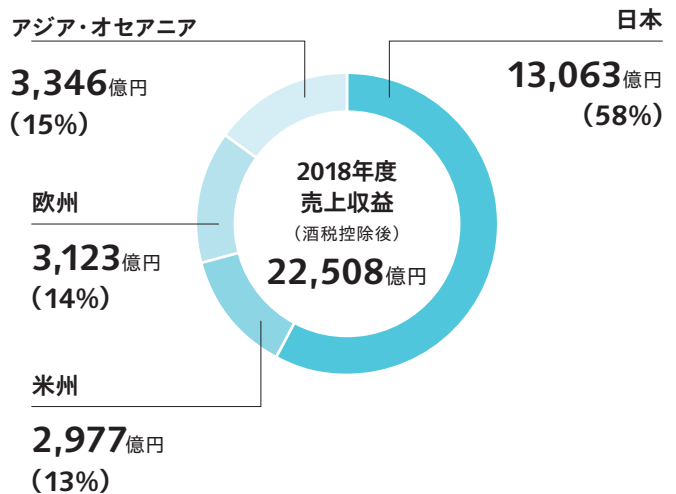
## 連結営業利益



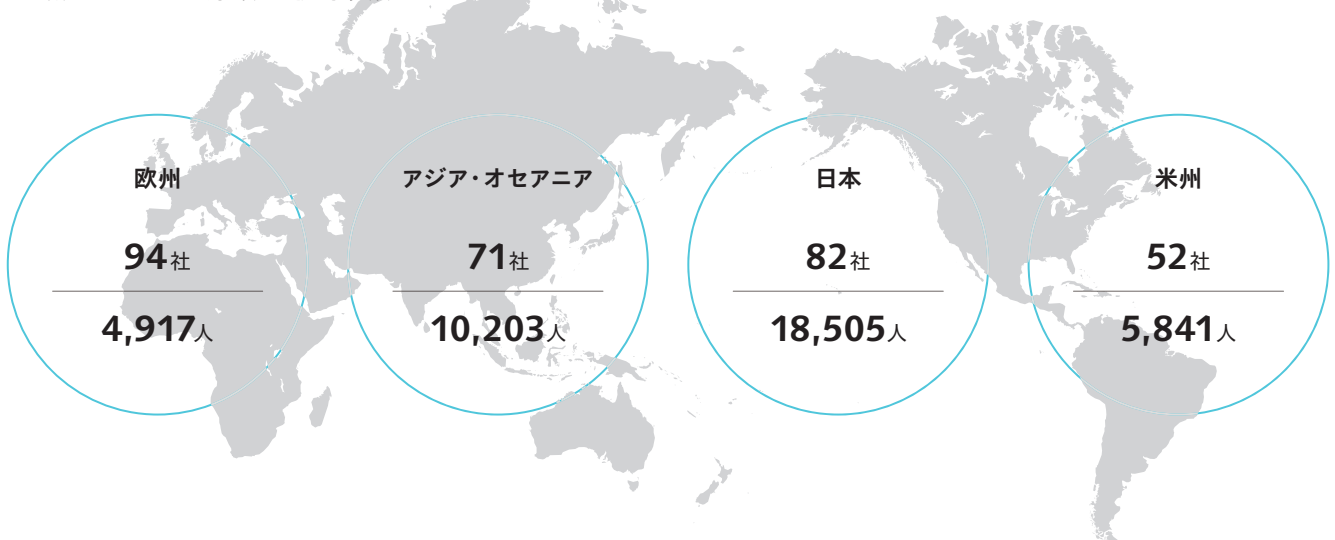
## 事業セグメント別売上



## 地域別売上



## 地域別グループ会社数／従業員数



サントリーグループの企業情報についての詳細は web サイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/overview/>



# 事業概要

## 飲料・食品関連事業

ミネラルウォーター・コーヒー・茶・炭酸飲料・スポーツ飲料、健康食品など、幅広い商品をお届けしています。また、日本をはじめ欧州、アジア、オセアニア、北米などグローバルに、清涼飲料や食品の製造・販売事業を行っています。



### 関連会社

サントリー食品インターナショナル株式会社

#### 日本

サントリーフーズ株式会社  
サントリービバレッジソリューション株式会社  
サントリービバレッジサービス株式会社  
株式会社ジャパンビバレッジホールディングス  
サントリープロダクツ株式会社

#### 欧州

Orangina Schweppes Holding B.V. / オランジーナ・シュウェップス ホールディングス  
Lucozade Ribena Suntory Limited / ルコゼードライビーナサントリー

#### アジア

Suntory Beverage & Food Asia Pte. Ltd. / サントリー食品アジア  
BRAND'S SUNTORY INTERNATIONAL CO., LTD. / ブランズ サントリー  
PT SUNTORY GARUDA BEVERAGE / サントリーガルダ・ビバレッジ  
Suntory PepsiCo Vietnam Beverage Co., Ltd. / サントリーペプシコ・ベトナム・ビバレッジ  
Suntory PepsiCo Beverage (Thailand) Co., Ltd. / サントリーペプシコ・ビバレッジ・タイランド

#### オセアニア

FRUCOR SUNTORY NEW ZEALAND LIMITED / フルコア・サントリー・ニュージーランド  
FRUCOR SUNTORY AUSTRALIA PTY. LIMITED / フルコア・サントリー・オーストラリア

#### 米州

Pepsi Bottling Ventures LLC / ペプシ・ボトリング・ベンチャーズ



## 健康食品・外食・花・サービス他関連事業

アイスクリームの製造・販売事業、国内外での外食事業など幅広く展開しています。また、ポリフェノール研究やバイオ技術を活用した多彩な商品の開発、中国での環境緑化事業、文化施設でのレセプションサービスなども行っています。



### 関連会社

株式会社ダイナックホールディングス  
株式会社プロントコーポレーション  
井筒まい泉株式会社  
Restaurant Suntory Mexico Group / レストランサントリーメキシコグループ  
Suntory F&B International Group / SFBグループ  
サントリーフラワーズ株式会社  
トヨタサントリーミドリエ(上海)園芸有限公司  
サントリーマーケティング&コマース株式会社  
サントリーパブリシティサービス株式会社  
サントリー興産株式会社  
株式会社サン・アド  
サントリーウエルネス株式会社  
台湾三得利健益股份有限公司  
株式会社コネク  
ハーゲンダッツ ジャパン株式会社  
三得利(中国)投资有限公司 / サントリー(中国)ホールディングス  
汇源三得利(上海)饮料有限公司 / 匯源サントリー(上海)飲料

## 酒類関連事業

1899年にぶどう酒製造販売で創業して以来、日本初の本格ウイスキーの製造、ビール事業の展開など絶えざる挑戦により事業領域を拡大。総合酒類企業として、多彩な商品を世界のお客様にお届けしています。



### 関連会社

Beam Suntory Inc./ビームサントリー

サントリースピリッツ株式会社

サントリーアライド株式会社

サントリー知多蒸溜所株式会社

大隅酒造株式会社

サントリーBWS株式会社

サントリービール株式会社

サントリー酒類株式会社

沖縄サントリー株式会社

サントリーワインインターナショナル株式会社

株式会社ファインズ

株式会社岩の原葡萄園

モンテ物産株式会社

ASC Fine Wines Holding Ltd./ASCファインワインズ

Château Lagrange S.A.S./シャトー ラグランジュ

Grands Millésimes de France S.A.(GMdF)/グラン ミレジム ド フランス

Château Beychevelle/シャトー ベイシュヴェル

Château Beaumont/シャトー ボーモン

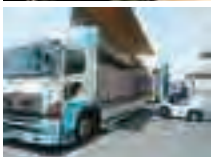
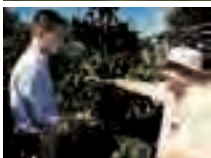
Barrière Frères S.A./バリエール

Weingut Robert Weil/ロバート ヴァイル醸造所



## 機能会社

グループ各社に共通する事業を集約し、品質保証、技術開発、調達・物流、宣伝・デザイン、お客様リレーション、ビジネスシステムや、基盤研究、営業支援などを担う機能会社を設立しています。



### 関連会社

サントリーMONOZUKURIエキスパート株式会社

三得利分析技術(上海)有限公司

サントリーコーヒーロースタリー株式会社

サントリーモルティング株式会社

三得利貿易(香港)有限公司

サントリーロジスティクス株式会社

サントリービジネスシステム株式会社

サントリーシステムテクノロジー株式会社

サントリービジネスシステムアジア株式会社

サントリーコミュニケーションズ株式会社

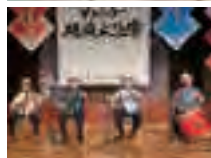
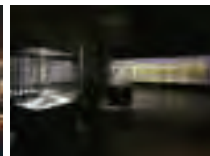
サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

サントリーコーポレートビジネス株式会社

サンリーブ株式会社

## 芸術文化・学術・社会福祉関連法人

学術・芸術・地域文化振興のための3つの公益財団法人と、高齢者福祉施設・保育園を運営する社会福祉法人の活動を支援するなど、文化・社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



### 関連法人

公益財団法人サントリー芸術財団

サントリー美術館

サントリーホール

公益財団法人サントリー文化財団

公益財団法人サントリー生命科学財団

社会福祉法人邦寿会



サントリーグループの事業についての詳細はwebサイトをご覧ください。

<https://www.suntory.co.jp/company/business/>





# グループ会社の社会貢献活動紹介

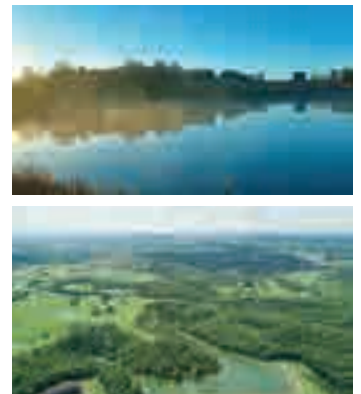
グローバルに事業を展開するサントリーグループの社会貢献活動の取り組みの一例として国内・海外グループ会社での活動を紹介します。

## 「ナチュラル・ウォーターサンクチュアリ」の設置



ビームサントリー

**優**れたバーボンは、良い水から始まります。ビームサントリーでは、この貴重な天然資源を守るため、蒸溜所周辺の水源保全活動や森の生物多様性向上をはじめとする自然環境の保全に力を入れてきました。2016年に始まったメーカーズマーク「ナチュラル・ウォーターサンクチュアリ」プロジェクトでは、蒸溜所33エーカー（約13ha）の土地でアメリカホワイトオークの植樹を実施し、水源涵養<sup>かんよう</sup>の活動に取り組んできました。また、2018年には「バーンハイム・アーボリータム&リサーチフォレスト」と連携しながら、ジムビーム蒸溜所のすぐ隣にある15,625エーカー（約6,300ha）の土地の中にナチュラル・ウォーターサンクチュアリを設定し、活動を推進しています。



## 次世代環境教育「水育」<sup>みずいく</sup>

**水**トナムでは、水の衛生や水資源の問題など、地域が抱える課題に向き合ったさまざまな活動に取り組んでいます。これまで日本で展開してきた次世代環境教育「水育」を、2015年に海外で最初に展開を始め、今年で5年目を迎えました。未来を担う子どもたちが「水」の大切さや価値を学ぶことが重要であると考え、水の節約や水資源の保護に関する教育を行うとともに、学校での節水にも取り組んでいます。ベトナムで開始した「水育」は、2018年には対象エリアをクアンナム省、ランソン省、ハザン省にも拡大し、のべ約1.8万名の小学生が参加しました。当プログラムに参加した児童や教員からは「水の大切さを実感できた」とご好評いただき、地元行政からも高く評価いただいています。また、環境教育に加えて、子どもたちの衛生環境の向上に貢献すべく、対象小学校においてトイレや洗面所などの改修や浄水設備の設置も支援しています。



サントリーペプシコ・ベトナム・ビバレッジ



サントリーグループのグループ各社のサステナビリティについての詳細はwebサイトをご覧ください。  
<https://www.suntory.co.jp/company/csr/activity/group/>





井筒まい泉



オリジナル豚肉「甘い誘惑」

## 食品リサイクルの推進

**ま** い泉では、早くから廃油の100%リサイクルを実現するなど、食品廃棄物の排出量削減とリサイクルに注力しています。「ヒレかつサンド」製造時に切り落とされるパンの耳を、パン粉製造者や飼料製造者に販売するなど、有効活用してきました。これらの取り組みの結果、高津工場ではリサイクル率100%、店舗では約50%を維持しています。

また、飼料製造業者や養豚事業者との連携のもと、パンの耳を飼料として活用した食品廃循環リサイクルによるオリジナル豚肉「甘い誘惑」を開発し、おいしさの追求と環境配慮を実現しました。まい泉では、今後も食品リサイクルの取り組みを積極的に推進していきます。



ハーゲンダッツ ジャパン



## 霧多布湿原ナショナルトラストを支援

**ア** イスクリームの主原料の牛乳の生産地である北海道・根室釧路地区において、2007年から厚岸郡浜中町のNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストへの支援活動を行っています。主原料の乳牛を育てている地域の保全活動にハーゲンダッツの従業員が参加し、地元の方々と協力しながら木道の補修をするなど、湿原の景観保全・整備のボランティアを実施するとともに、ハーゲンダッツのミルクの品質についての理解促進活動を行っています。ハーゲンダッツ ジャパンでは、2018年で12回目を迎えたこの活動を引き続き実施し、ボランティア活動に力を入れて参ります。

## コーヒー豆かすを再利用した植木鉢

### 「CAFE TSUCHIKO」の開発

**プ** ロントグループでは、自然の恵みを商品としてお客様に提供していることから、その恵みを循環させることが大切であり、将来に向けて再生していく義務があると考えています。

プロントで廃棄されるコーヒー豆かすは1日約2トン。おいしく飲まれている一方で、毎日大量のコーヒー豆かすが廃棄されています。試行錯誤を重ね、誕生したのがコーヒー豆かすと間伐材からできた植物由来の植木鉢「CAFE TSUCHIKO (カフェ ツチコ)」です。「CAFE TSUCHIKO」は植物由来の製品のため、植物が大きくなったらそのまま大きな鉢や庭に植え替えることができ、自然に土に還ります。その他、コーヒー豆かすを「じゅらく聚楽壁」に混ぜ合わせ、消臭・店内の湿度管理に役立てるなど、食品廃棄物の削減・再生に積極的に取り組んでいます。



フロントコーポレーション





YouTube サントリー公式チャンネル  
水と生きる『水と生きる MOVIE』

